



ネットの向こう側にいるのはだれ？



社会問題化しているネット上の誹謗中傷。
 昨今、SNSなどでの誹謗中傷や事実に基づかない誤った情報をインターネットに流す行為などが多くみられています。



最近、芸能人などへのインターネット上での誹謗中傷がニュースになっているね。

相手の顔が見えないから、軽い気持ちで書いているんだろうけど、コメントを書かれた本人はとも傷ついていると思うな。



誹謗中傷の事例

事例1

2020年、女子プロレスラーがテレビ出演した時の言動について、SNS上で多くの誹謗中傷を受け、同年5月に彼女は自殺しました。SNS上に誹謗中傷する内容を投稿した男性1名が、書類送検されています。

事例2

「コロナに感染して自殺した」という噂がTwitterで全国36道県で確認されました。そのうち、26道県のケースがウソの噂でした。ウソの噂を流された当事者は精神的に追い込まれたそうです。

なぜ、ウソの噂を流したのか。その理由の一つに、感染者の友人と名乗る人物からのSNSのメッセージがきっかけだそうです。感染者の名前や住所、亡くなったとされる経緯なども具体的に記されていたため、信じこんでしまったといいます。そして、感染によって誹謗中傷をすることはあってはならないという思いで投稿したそうです。感染者をいじめてはいけないという「正義感」が実際はウソの噂を流すことになり、当事者を苦しめていたのです。

※NHK2021年1月10日(日)より

事例3

SNSトラブルの大きな原因のひとつは「未熟な言葉の使い方」です。SNSの場合は文字だけの会話になるため、ちょっとしたきっかけでエスカレートし深刻な「ネットいじめ」に発展した事例が確認されています。

インターネットの普及

あなたは、インターネットを利用することはありますか。世界中の人とつながって交流したり、オンラインゲームやSNSの利用、容易に調べものができたり、最近ではインターネットショッピングなど利用方法も多様化し、さまざまな人にとって身近なものになっています。しかしながら、私たちの生活を飛躍的に便利で豊かなものにしてきている一方、インターネットを介した人権侵害が数多く発生しているのが事実です。



人権侵害の特徴

- 加害の容易性(誰でも簡単に書き込みができる)
- 匿名性(匿名での書き込みが可能)
- 被害回復の困難性(情報発信者が特定されにくい)
- 被害の拡散性(世界中から閲覧可能、一度掲載した情報は、コピーや転載されると完全に消すことが難しい。)

インターネットの使い方を間違えると、人の心を傷つける「凶器」にもなり、使い方次第で、「加害者」にも「被害者」にもなるおそれがあります。

ネットの向こう側には、あなたと同じ人間がいます!!

インターネットを利用するときのルールとマナー

- ★ 他人の悪口や差別的な内容は書き込まない。
- ★ 他人の書き込みを“あおる”書き込みはしない。
- ★ 根拠のないうわさ話は載せない。安易に拡散しない。
- ★ 他人の個人情報や無断で掲載しない。
- ★ 雑誌や書籍の写真・記事を勝手に掲載しない(著作権)。

顔が見えないからこそ、相手の人権を尊重することを忘れず、配慮を持って利用しましょう。

【問】人権推進課 ☎(087)894-9088

「行為の意味」

道徳教育の中で、大事なものは心と行為の一致だと言われますが、大変難しいことです。どんなに大事なことも大切なことと心で思っても行為として思いを表さなければそれは相手に伝わりません。また、その逆も同様です。そこで、心と行為の一致の大切さを伝える「行為の意味」という宮澤章二氏の詩から、心と行為の一致の大切さについて書かれた記事を紹介いたします。

「行為の意味」 宮澤 章二

あなたの心はどんな形ですか
 人に聞かれても答えようがない
 自分にも他人にも心は見えない
 けれど 本当に見えないのであろうか
 確かに心はだれにも見えないけれど
 心づかいは見えるのだ
 それは 人に対する積極的な行為だから
 同じように胸の中の思いは見えないけれど
 思いやりはだれにでも見える
 それも 人に対する積極的な行為なのだから
 あたたかい心が あたたかい行為になり
 やさしい思いが やさしい行為になるとき
 「心」も「思い」も初めて美しく生きる
 それは 人が人として生きることだ

「ありがたい」「ごめんなさい」も同じです。心の中でどんなに感謝しても、「悪かったなあ」と思っていたとしても、声に出して行為として表さなければ相手には伝わりません。
 心に思っていることは、行為として積極的に表す勇気を持ちましょう。
 心の中の思いと行為が一致した時に、きっと人と人として大きく成長することになるでしょう。
 (注1)日本教育新聞(2021年4月19日号より)

この詩の中で宮澤さんは、「人の心の中は誰にも見えない。どんなに思いがあつたとしても、行為として表さない限り、人には伝わらない。自分の思いを積極的に行為という形にして表した時に初めて意味あるものになってくる」と言っています。
 そうは言っても自分の思いを行為として表すことは時に、恥ずかしく、勇気のいることです。それでも、心に思ったことは行動に表さなければ伝わりません。

皆さんはどんな感想を持たれたでしょうか？

家庭や学校生活の中でも、社会の中でもこの詩の「行為の意味」に書かれたあたたかい心・やさしい思いがあたたかい行為・やさしい行為となっていけばと思います。

★青少年に関する相談情報は

さぬき市青少年育成センター ☎(0879)266-9976
 少年相談専用電話 ☎(0879)266-9977